

建築・空間デジタルアーカイブス（DAAS）コンソーシアム
2006-2007 年度事業報告(案)

2007 年 9 月 6 日時点

【運営委員長報告】

2006 年 12 月にコンソーシアム設立総会、2007 年 3 月に第一回運営委員会が開催され、もうすぐ初年度が終わろうとしています。ここで、2006 年度の活動報告をさせていただきます。

今年度は、DAAS の活動を軌道に乗せるためにどのような課題があるかをまず抽出し、その多くの課題を一つ一つ検証し消化していくという状況でした。事務局の運営についても、毎月事務局会議を開催し、スタッフの充実、連絡手段の整備、意思決定のルール化などの議論を進めて、ようやく機能し始めたところです。

コンテンツについては、その拡充と新たなあり方を模索・試行する一年であったかと思えます。デジタルコンテンツの特性とその効果を最大限に活かすために、インタビューの動画や、イベントの開催とその記録映像などを作成いたしました。また、権利関係や保存方法など、専門家やコンテンツホルダーの方々のご意見を伺っているところです。

さらにウェブの継続的な運営管理を行ったわけですが、アクセス数や登録数は、当初の伸びほどではないにしろ、少しずつ増加しています。さらなる今後の広報活動やイベント開催などにより認知度を高めることが必要であると感じております。

近年、建築アーカイブへの関心が徐々に高まりつつあり、日本建築学会【AIJ】や日本建築家協会【JIA】の活動の中でも取り上げられることが増えました。DAAS はその使命の一つとして、全国のアーカイブとの連携を深め、それぞれを繋ぐ役目を担うと考えており、相互にその存在を社会に知らしめる機会が持てるのではないかと期待しております。現物をすべて保存するというアーカイブとは異なり、デジタル化されたコンテンツをウェブ上で検索や閲覧できるといった特殊な機能を活かして、新たな価値を見出すことができるのではないかと考えております。

来年度は、コンテンツの採用（審査）基準をより明確にし、限られた予算の中で効果的に拡充させることはもちろんのこと、ウェブ自体の機能拡張を実施し、より利用価値の高いものへと進化させたいと思えます。

会員皆様の活動に関するご理解と、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

DAAS 運営委員会委員長 三塩 達也

【事業計画の実施状況】

DAAS の 2006—2007 年度事業計画は、2006 年 12 月 4 日の理事会において、下表の左欄のように了承されています。DAAS はこの事業計画に従い事業を実施してきており、その実施状況は右欄のとおりです。

2006-2007 事業計画	実施状況
<p>1. 基本方針</p> <p>DAAS コンソーシアムは、2005 年に国土交通省が整備したアーカイブスの基本システムを確実に運営、管理し、さらに発展させるため、2006 年度においては会員団体等と意見交換を行いつつ組織運営体制を確立するとともに、コンテンツの充実に向けたコンテンツ提供の受け入れ、収集方法の整備、Web の公開システムの改善、閲覧者・利用者の拡大等を図るための広報事業を行う。</p> <p>2. 事業計画</p> <p>(1) 組織運営体制の確立</p> <p>理事会、運営委員会、各部会を 1 回以上開催し運営体制を確立する。運営委員、部会員は、当面の間、少人数とし効率的な運営を行うこととする。</p> <p>(2) 基本システムの運営・管理</p> <p>国土交通省の整備した基本システム（Web サイト、データベース、コンテンツ管理プログラム等）の運用、管理を行う。</p>	<p>1. 実施状況の概要</p> <p>全体にやや遅れを生じているが、事業計画に従い概ね事業を遂行している。年度後半において、事務局の強化、試行的なコンテンツ整備・各種企画等が実施され、又は実施準備が進められ、DAAS の周知、普及と相乗効果を生みつつあり、次期の展開に向けた環境が整ってきている。</p> <p>2. 実施状況</p> <p>(1) 組織運営体制</p> <ul style="list-style-type: none">・理事会（12/4 開催）・運営委員会（3/2・6/20 開催、9/21 開催予定）・部会（当面、運営委員会が部会を兼ねることとした。）・事務局会議（12/18～9/14 まで 14 回開催）・事務局職員の配置 <p>※新法人制度に基づく法人化について事務局で検討</p> <p>(2) 基本システムの運営・管理</p> <p>国土交通省の委託費により整備し、受託者である（財）日本建築センターが知的所有権を保有していた基本システムについて DAAS コンソーシアムが継承する手続きをとり、DAAS において運用、管</p>

(3) コンテンツの整備

- ① 企業会員、個人会員等から DAAS 基本コンテンツ（建築物の基礎情報・写真等）の提供を受けるための諸規則、標準契約約款、システムの整備を図る。
- ② 閲覧者からのフィードバック・提供情報等の取り扱い、掲載等について、諸規則を整備し、コンテンツの充実に活用する。
- ③ Web の改善計画に基づき英文化されるシステムに対応し、既存のコンテンツのデータを英語化する。平成 18 年度は、新建築社から提供を受けた既存の英語情報を活用した整備を進める。
- ④ Web の改善計画に基づき整備される動画提供機能を活用し、2005 年の DAAS シンポジウムの記録等の動画を掲載する。
- ⑤ 既存の基本コンテンツの正確性を向上させるための情報提供の呼びかけを Web 上で行う。
- ⑥ 過去の会員団体の表彰建築物についての情報提供を要請し、団体若しくは受賞者等からデータ提供のあったものについて掲載する。また、会員団体、教育機関等の次年度以降の表彰建築物、卒業制作等を掲載する準備を進める。
- ⑦ 会員の保有する Web サイトや既存の国内外のアーカイブ等にリンクし、ポータルサイトとしての機能を充実させる。
- ⑧ その他、コンテンツの充実、整備に向けた検討を行う。

理を開始した。

(3) コンテンツの整備

- ① コンテンツの提供を受けるための諸規則の整備について、事務局において検討を実施。
 - ② コンテンツの充実に向けて以下を実施。
 - 閲覧規約等の改訂、掲載
 - 投稿システムの改善検討、試行
- コンテンツの英訳のための作業計画の検討及び見積もりを徴収。(Web 本文については発注。)
- 動画の収蔵**
- ・ DAAS シンポジウムの動画記録 掲載
 - ・ 楨文彦氏による自身の建築解説 収録・掲載
 - ・ 菊竹清訓氏ワークショップ（後掲）の動画収録
 - ・ 林昌二氏の自身による建築解説収録準備開始
 - ・ 池原義郎氏の自身による建築解説収録準備開始
- 清家清氏設計宮城教授の家の解体工事前写真の撮影
- 建築関係団体の表彰物件情報の収蔵準備の開始
- ・ 関係団体ヒアリングの実施
 - ・ 関係団体における新規募集における DAAS 転載告知
- JIA のアーカイブ活動との意見交換（9/4）
- 国内の個人建築家アーカイブ等とのリンクの掲載
- 菊竹清訓氏を招いたワークショップの実施（5/11）
- DAAS コンテンツ写真を高精細画像で上映しつつ、菊竹氏自身による建築解説等
- 小川泰介建築写真家協会会長との意見交換（8/31）

ODAAS 主催卒業設計大賞の実施（募集中：9 月末日締）

→隈研吾氏(選考委員)、榎文彦氏（アドバイザー）

(4) Web サイトの改善

① コンテンツの英訳のための作業計画の検討及び見積もりを徴収。（ウェブ本文について英訳発注）（再掲）

② 事業計画にある機能拡張をすべて実施

③ 次期の改修計画を立案

(5) コンソーシアムの広報

① 広報用資料（フライヤー）の作成。運営委員会会員団体・企業への配布、建築系大学への送付。

(4) Web サイトの改善

① Web サイトの英語化を進める。平成 18 年度は、トップページ及び検索ページの英訳を行う。

② Web サイトの機能を拡張する

(ア) 建築資料の一括登録用 CSV ファイルの項目追加（管理機能）

(イ) 建築資料の画像表示を他サイトからの画像でも表示可能とする。

(ウ) 簡易検索「キーワード」にサジェスチョン機能を追加。

(エ) 詳細検索の全項目にサジェスチョン機能を追加。

(オ) 非ログイン時でも検索結果にサムネイル画像を表示。

(カ) 資料件数をトップページに表示。

(キ) 検索キーワードを建築物／関連資料に登録、検索可能とする。

(ク) ビデオ（動画）表示

(ケ) TOP ページに新着エントリーを自動表示。

③ その他、コンテンツの検討等と連携し、Web サイトの改善に向けた検討を行う。

(5) コンソーシアムの広報

① コンソーシアム及び DAAS ウェブサイトの周知を図るための広報用資料を作成し、広報活動を Web 上、メール、関係団体

の広報誌等において行う。

- ② その他、会員、閲覧者の拡大等に向けた広報活動について検討を行う。

(6) 実空間展示等の企画立案

- ① 2011年のUIA大会、新国立美術館における建築展示等との連携に向け、DAASのコンテンツ等を活用した実空間展示等の企画立案を行う。

(7) その他

その他、基本方針に基づき所要の活動を行う。

- ② 卒業設計大賞等の企画と合わせ、建築関係雑誌及び建築団体の会誌等でDAASの活動の周知。

- ③ 新聞報道で紹介（日経新聞4月14日）

(6) 実空間展示等の企画立案

- ① 文化庁文化部芸術文化課との意見交換（5/25）

- ② 国立新美術館との意見交換及び同館で開催された建築関連展示の視察（6/13）

→文化庁、新美術館の資源での協力は困難。既存の枠組みでなく建築文化について大きなテーマ設定が必要とのサジェッション

- ③ 慶應大学高精細スクリーンによる収蔵写真の上映（再掲）

(7) その他

○宮城大学事業構想学部学生との意見交換(3/7)他、建築系、情報系教育機関と共同によるイベントの実施

○理事長、理事（建築家）への事業報告（随時）